



校則と子どもの狭間に生きる教師：『コッホ先生と僕らの革命』（原題：Der ganz gro ß e Traum）（2011年）

著者	澤田 裕之
雑誌名	映画で学ぶ《教育学》
号	4
ページ	22-23
発行年	2014-12
URL	http://hdl.handle.net/2241/00124147

校則と子どもの狭間に生きる教師

澤田 裕之（国際学院埼玉短期大学／教育制度学）

コッホ先生と僕らの革命

（原題：Der ganz große Traum）

- ◆ 種別：DVD（映画）
- ◆ 監督：セバスチャン・グロブラー
- ◆ 製作年：2011 年
- ◆ 製作国：ドイツ
- ◆ 発売元：東映ビデオ
- ◆ 販売元：東映
- ◆ 時間：本編 114 分
- ◆ 音声：ドイツ語／日本語吹替
- ◆ 字幕：日本語
- ◆ 価格：DVD 発売中 2,800 円（税抜）



©2011 DEUTSCHFILM / CUCKOO
CLOCK ENTERTAINMENT /
SENATOR FILM PRODUKTION

あらすじ

1874 年、帝政ドイツの歴史ある都市ブラウンシュヴァイクにあるカタリネウム学校に、イギリスのオックスフォードへ留学していたコンラート・コッホ（Konrad Albert Koch）が、革製のサッカーボールを手にドイツ初の英語教師として招聘された。

当時のドイツにおける教育は秩序と規律、服従の精神が貫徹しており、体操が一般的なスポーツだった。スポーツにおける勝利という概念は不道德かつ不名誉なものと考えられており、勝利の概念とは関係のない体操が好まれたのである。そのため、ドイツの学校における体育の授業は、器械体操や軍隊式の行進が中心であった。そして当時のドイツでは反英感情が根強く、イギリスで生まれたサッカーは“反社会的”なものと思われてきたのである。英語教師のコッホは着任早々、カタリネウム学校のメアフェルト・グスタフ校長に英語の授業を頼まれ教室へ向かうと、生徒たちは一糸乱れぬ動きでコッホへ挨拶する。コッホはその様子に驚きながらも英語の授業を開始したが、生徒たちの英語に対する無関心さ、そしてイギリスへの偏見を目の当たりにしたのである。そこでコッホは授業にサッカーを取り入れ、英語の授業として体育館でサッカーを教え始める。最初、生徒たちは見よう見まねでボールを蹴るところから始まったが、次第にサッカーに夢中になり、サッカー用語を通じて英語の授業も熱心に受けるようになる。

しかし、カタリネウム学校を初め、当時の教育は「秩序と規律、服従」であった時代。進歩的教育観を持つコッホは、メアフェルト・グスタフ校長や同校の教員、そして地元の名士でカタリネウム校に対しても大きな権限を持つ級長フェリックス・ハートウングの父親らと対立していく。結果的に学内でのサッカーが禁止となり、それに従ったコッホだったが、生徒たちの表情を見て、「放課後は自由だ。あとは君たちにまかせる」と一計を案じたのである。



本作品からは、過度に規律を重んじ、服従を迫る教育によって抑圧されていた生徒たちが、コッホの授業により解放され、徐々に自立心を取り戻していく様子を看取できる。服従や階級が社会の基本になっていた当時のドイツにおいて、コッホはサッカーを

通じて、敵味方に関係なく「他者に敬意を払う大切さ」を教え、グラウンドの上で自由に「個性や自発性」を発揮させる教育を行ったのである。

また本作品では、級長フェリックス・ハートウングが、唯一の労働者階級の生徒で奨学金制度により就学しているヨスト・ボーンシュテットに対して、執拗にいじめを行い、コッホやサッカーに対しても背を向ける状況が描かれている。しかし、そのフェリックス自身は、家庭において絶対的な存在であり学校にも多大な影響力を持つ父親から、エリート主義的価値観を植え付けられていた。フェリックスは、父親からの圧力のはけ口としてボーンシュテットを蔑視し、いじめを「行ってしまう」のではないだろうか。彼自身が、「抑圧」の被害者であると捉えることができるだろう。

教育学の視点から見ると、過度の規律や服従を強制する抑圧的な教育が、「個性や自発性」の芽を摘み、そして抑圧の“ガス抜き”として「いじめ」を蔓延させる、といういくつかの教育問題を指摘できる。そしてそれらは、今日の問題でもある。

学校には、それぞれ環境や立場の異なる子どもたちが集う。そして個々人を束ねるものとして、「学則」や「校則」などの規則が存在する。しかし、権威者は規則を守らせることに終止し、学ぶ者と教える者の自由を奪ってはいないだろうか。「何のための規則か」という目的を見失わないためにも、生徒は「何故、縛られるのか」、また教師は「何故、縛らなければならないのか」と問う必要がある。

コッホは、サッカーによって生徒を抑圧から解放し、それぞれの自我や才能を目覚めさせた。生徒が自らの足で困難を乗り越え人生を切り開くプロセスからは、教師として校則と子どもの狭間にある苦悩が滲み出ている。同様の“もどかしさ”を感じている多くの教師にとって、日々の教育実践に向かう勇気を与えてくれる映画である。

「学校よ、教師を信じて『自由』を与えよ。」

Information

【人物紹介】コンラート・コッホ (Konrad Albert Koch) 1846年-1911年
独ブラウンシュヴァイク生まれ。ドイツにおけるサッカーの創始者。1874年、英オックスフォード大学留学からドイツへ帰国、サッカーを紹介する。1875年、英語のルール本をドイツ語に翻訳。本作に登場する生徒たちと共に、独初となるサッカー協会を設立した。